

宇治市水道事業ビジョン・経営戦略
第2次財政収支見通し

令和6年3月

宇治市上下水道部

1. 宇治市水道事業ビジョン・経営戦略第2次財政収支見通しの策定について

上下水道部では、令和3年3月に策定した「宇治市水道事業ビジョン・経営戦略」（以下「水道ビジョン」という。）に沿った施策推進のため、令和3年度から5年度の第1次事業実施計画を策定し、事業に取り組んでまいりました。

この度、第1次事業実施計画の進捗、成果等を検証し、引き続き、令和6年度から8年度の3年間の事業年度とする第2次事業実施計画を策定いたします。これに伴い、計画期間の施策を実施していく上での収支見通しを明らかにするため、令和3年度から3年間の財政収支を総括し、令和6年度から3年間の第2次財政収支見通しを策定いたしました。

数値については、令和3、4年度は決算額、令和5年度は決算見込額、令和6年度は当初予算額、令和7、8年度は見込額としております。

2. 収益的収支

1) 収益的収支総括および見通し

（税抜 単位：千円）

	第1次実施計画			第2次実施計画		
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
収益的収入	3,632,219	3,632,594	3,838,207	3,960,302	3,889,429	3,851,360
収益的支出	3,753,247	3,889,233	3,994,581	4,110,559	4,148,721	4,283,083
純損益	△ 121,028	△ 256,639	△ 156,374	△ 150,257	△ 259,292	△ 431,723

令和4年10月使用分より水道料金の改定を実施したため、令和5年度から収入は増加していますが、水需要の減少により、ゆるやかに給水収益が減少していく見込みです。支出については、原油や物価の高騰により、動力費や薬品費などの支出が増加しており、こうした状況が続くと、赤字で推移すると見込んでいます。

2) 収益的収入の内訳

（税抜 単位：千円）

	第1次実施計画			第2次実施計画		
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
収益的収入	3,632,219	3,632,594	3,838,207	3,960,302	3,889,429	3,851,360
給水収益	2,905,618	2,616,804	3,047,018	3,095,322	3,241,255	3,205,106
補助金	16,702	423,787	228,483	246,719	50,567	53,198
長期前受金戻入	299,881	293,210	288,086	288,225	281,290	276,739
その他収益	410,018	298,793	274,620	330,036	316,317	316,317

令和4年10月使用分より水道料金を改定していますが、令和4～6年度に水道料金の減免を実施しているため、給水収益は減少し、一般会計による補助金が増加しています。

給水収益は、今後も人口減少などによる水需要の減少により、減少する見込みです。

3) 収益的支出の内訳

(税抜 単位：千円)

	第1次実施計画			第2次実施計画		
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
収益的支出	3,753,247	3,889,233	3,994,581	4,110,559	4,148,721	4,283,083
職員給与費	449,059	443,110	453,298	485,944	458,966	458,966
受水費	1,538,714	1,649,730	1,645,455	1,635,455	1,629,369	1,621,390
減価償却費等	879,588	918,251	962,513	992,653	1,047,132	1,169,785
支払利息	75,989	73,365	93,736	103,728	136,979	156,667
その他費用	809,897	804,777	839,579	892,779	876,275	876,275

受水費は、令和2年度からの京都府営水道料金の改定により増加しましたが、受水量の減少により、令和4年度をピークに減少する見込みです。なお、令和7年度以降の京都府営水道料金については、現時点では現行の単価で推計しています。

減価償却費は、ここ数年の老朽管更新や耐震化事業等の実施により増加しています。

支払利息は、工事实施のために企業債を借りているため、増加していく見込みです。

その他費用は、原油や物価の高騰により、動力費や薬品費などが増加しています。

3. 資本的収支

1) 資本的収支総括および見通し

(税込 単位：千円)

	第1次実施計画			第2次実施計画		
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
資本的収入	1,647,094	1,782,940	2,020,127	1,645,847	1,257,037	935,453
資本的支出	2,418,192	2,661,511	2,761,301	2,437,700	2,048,142	1,852,785
収支不足額	△ 771,098	△ 878,571	△ 741,174	△ 791,853	△ 791,105	△ 917,332

老朽化が進む水道施設の更新・耐震化事業を着実に進めるため、資本的支出は大きな金額となっています。

収支不足額については、国庫補助金を活用するとともに、企業債を借り入れ、内部留保資金で補填しながら対応していく予定です。

2) 資本的収入の内訳

(税込 単位：千円)

	第1次実施計画			第2次実施計画		
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
資本的収入	1,647,094	1,782,940	2,020,127	1,645,847	1,257,037	935,453
企業債	1,168,000	1,547,100	1,528,100	1,319,000	1,097,200	700,500
補助金	0	5,381	36,087	56,000	5,000	65,000
出資金	275,677	155,282	256,876	168,788	36,037	51,153
その他収入	203,417	75,177	199,064	102,059	118,800	118,800

補助金や出資金は、事業の内容により年度ごとに額は異なりますが、令和4年度からは国庫補助金を活用し、新たな財源を確保しています。今後も積極的に補助金等を活用するように取り組みます。

3) 資本的支出の内訳

(税込 単位：千円)

	第1次実施計画			第2次実施計画		
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
資本的支出	2,418,192	2,661,511	2,761,301	2,437,700	2,048,142	1,852,785
建設改良費	1,970,593	2,106,837	2,353,220	2,057,959	1,613,130	1,297,074
企業債償還金	447,599	454,674	408,081	379,741	435,012	555,711
投資	0	100,000	0	0	0	0

※6年度の建設改良費には予備費を含む

事業実施計画に基づき、年度ごとに建設改良費の額は異なりますが、計画的に水道施設の更新・耐震化工事を進めています。

令和4～6年度は琵琶送水管の改良工事など大規模な工事を実施したことにより、建設改良費が大きくなっています。

令和4年度の投資1億円は、新たな収入を確保するため、債券（20年）を購入したものです。

4. 総括

(税抜 単位：千円)

	第1次実施計画			第2次実施計画		
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
収益的収入	3,632,219	3,632,594	3,838,207	3,960,302	3,889,429	3,851,360
収益的支出	3,753,247	3,889,233	3,994,581	4,110,559	4,148,721	4,283,083
純損益	△ 121,028	△ 256,639	△ 156,374	△ 150,257	△ 259,292	△ 431,723

(税込 単位：千円)

	第1次実施計画			第2次実施計画		
	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
資本的収入	1,647,094	1,782,940	2,020,127	1,645,847	1,257,037	935,453
資本的支出	2,418,192	2,661,511	2,761,301	2,437,700	2,048,142	1,852,785
収支不足額	△ 771,098	△ 878,571	△ 741,174	△ 791,853	△ 791,105	△ 917,332

資金残高（内部留保資金）	1,691,957	1,357,852	1,329,201	1,266,768	1,106,497	749,239
--------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	---------

企業債残高	8,302,184	9,394,610	10,514,630	11,453,889	12,116,076	12,260,865
-------	-----------	-----------	------------	------------	------------	------------

収益的収支は、赤字で推移する見込みであり、資金残高（内部留保資金）は約7.5億円まで減少する見込みです。

資本的収支は、老朽化した水道施設の更新・耐震化に取り組んでいくため、国庫補助金を活用し、企業債の借り入れや内部留保資金からの補填により対応していく予定です。

企業債残高は、水道施設の更新・耐震化事業の実施に伴い増加していく見込みです。

5. 今後に向けた課題と展望について

水道は市民生活に必要不可欠なものであり、この間、令和3年度から「水道ビジョン」の施策を積極的に推進するため、第1次事業実施計画を策定し、老朽化が進む水道施設の更新・耐震化事業に取り組んできました。

しかしながら、人口減少などによる水需要の減少に加え、原油や物価の高騰により、動力費や薬品費などの支出が増加しているものの、人口急増期に建設した水道施設の老朽化が進む中、地震などの災害に備えた対策が強く求められていることから、引き続き、水道施設の更新・耐震化に取り組む必要があり、水道事業の経営は一層厳しさを増していくことが予測されます。

水道事業を取り巻く状況は大変厳しいところですが、「水道ビジョン」に掲げる基本理念である「安全な水道水の確実かつ持続的な供給」を目指し、10年後、さらにその先の50年後、100年後の将来も見据えた、より一層効果的・効率的な水道事業の運営に取り組んでまいります。